

2025 年度 事業計画・予算

- 第2号議 2025 年度事業計画案
- 第3号議 2025 年度予算案

<目次>

I. 法人・概要	1
II. 法人理念および方針	3
III. クレド	5
IV. 組織図	6
V. 事業計画	8
1. 長期12か年計画	8
2. 3か年計画(2025年度～)[項目別]	11
3. 2025年度事業計画	
① 2025年度各種委員会および会議等の構成	19
② 各計画およびスケジュール	
1) 法人本部	20
2) 新規事業準備室	23
3) かしの木ケアセンター	25
4) くろす	29
5) 相談支援センターかしの木	30
6) 地域生活サポートセンターらいと	31
7) のびる作業所	32
8) すてっぴ	35
VI. 予算	37
● 2025年度予算編成について	37
● 2025年度予算	38

I. 法人・概要

■ 経営主体

社会福祉法人めぐみ会 理事長 田中 利夫

■ 敷地・建物／事業種別および概要

《かしの木ケアセンター・生活介護くろす・相談支援センターかしの木・地域生活サポートセンターらいと》

〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町北永井381-3

・法人本部	TEL 049-258-0515	FAX 049-258-0989
・かしの木ケアセンター	TEL 049-257-6626	FAX 049-257-6101
・生活介護くろす	TEL 049-258-0061	FAX 049-258-0989
・相談支援センターかしの木	TEL 049-256-7627	FAX 049-257-6101
・地域生活サポートセンターらいと	TEL 049-257-6866	FAX 049-257-6101

敷地面積 10053.53㎡

建物面積 4358.53㎡

鉄筋コンクリート2階建（一人部屋20室/二人部屋20室）

生活介護かしの木	定員50名
施設入所支援	定員40名
短期入所	定員20名
生活介護くろす	定員20名
日中一時支援	定員10名/日・8:30~17:30
相談支援	月~金 8:30~17:30

福祉有償運送
三芳町心身障害者生活サポート事業
ふじみ野市障害児（者）生活サポート事業
富士見市障害児・者生活サポート事業
志木市障がい者生活サポート事業
移動支援・居宅介護・重度訪問介護
同行援護・行動援護

《すてっぴ》

〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町北永井375-5

TEL 049-292-0055 FAX 049-292-0055

敷地面積 684.00㎡

建物面積 259.20㎡

木造平屋建（個室10室）

介護サービス包括型	定員10名
-----------	-------

《すてっぴⅡ》

〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町北永井379-8

TEL 049-292-0055 FAX 049-292-0055

敷地面積 463.86㎡

建物面積 185.13㎡

木造平屋建（個室7室）

介護サービス包括型	定員7名
-----------	------

《いっぽ》

〒356-0057 埼玉県ふじみ野市市沢1-8-8

TEL 049-266-5580 FAX 049-266-5580

敷地面積 735.07㎡

建物面積 277.41㎡

借地借家・鉄骨造（個室7室）

介護サービス包括型	定員7名
-----------	------

《のびる作業所》

〒354-0044 埼玉県入間郡三芳町北永井381-1
 TEL 049-293-2302 FAX 049-257-0440
 敷地面積 1354.63㎡
 建物面積 736.67㎡
 鉄筋コンクリート2階建

就労継続支援B型	定員24名
生活介護	定員16名

■その他

協力病院	埼玉精神神経センター イムス三芳総合病院 エイジング歯科 こうの医院 ふじみの救急病院	嘱託医 嘱託医・産業医 顧問弁護士 顧問社労士 顧問税理士 嘱託医	浅野 賀雄先生 河野 知久先生 大森 三起子先生 三浦 修先生 横山 昌宏先生 鹿野 晃先生
------	---	--	---

■沿革

- 1997年 5月 / 社会福祉法人めぐみ会法人認可（森田貞子理事長）
- 1998年 5月 / 身体障害者療護施設かしの木ケアセンター開所
- 8月 / 身体障害者デイサービスセンター開所
- 12月 / 身体障害者短期入所事業開始
- 2000年 4月 / 三芳町機能回復訓練事業開始
- 2005年 1月 / 評議員会設立
- 2006年 10月 / 地域活動支援センター開始（デイサービスセンター廃止）
- / 日中一時支援事業開始
- 2007年 4月 / 障害者支援施設へ移行
- / ユニットケア開始
- / 相談支援センターかしの木指定取得
- 6月 / ヘルパーステーションかしの木指定取得
- / 三芳町・ふじみ野市・富士見市の移動支援事業の事業者登録
- 7月 / 居宅介護事業指定取得
- 2008年 1月 / 共同生活介護・共同生活援助事業すてっぷ開所
- 4月 / 新役員組織体制開始（谷崎愛子理事長）
- 2009年 9月 / のびる作業所開所
- 2010年 4月 / すてっぷⅡ開所
- 10月 / いっぽ開所
- 2013年 6月 / 新役員組織体制開始（田中利夫理事長）
- 2015年 4月 / 生計困窮者に対する相談支援事業の開始
- 2016年 4月 / 生活困窮者就労訓練事業開始
- 5月 / 社会福祉従事者に対し研修をおこなう事業開始
- 10月 / 生活介護事業（くろす）へ移行
- / 三芳町ふれあいセンター開始
- 2017年 10月 / 三芳町障がい者生活支援センター事業開始
- 2018年 4月 / のびる作業所 生活介護事業開始
- / 福祉有償運送、生活サポート事業開始
- / すてっぷサテライト型住居開始
- 2019年 4月 / 地域生活サポートセンターらいと事業開始
- 2020年 4月 / のびる作業所 就労継続支援B型、生活介護 定員変更
- 2025年 4月 / かしの木ケアセンター、くろす、事業所分離

理念

社会福祉法人めぐみ会は地域と共に歩み、地域の福祉を担います。

私たちは地域の社会福祉の担い手として、共に暮らしている隣人たちと考え、創り、社会福祉活動を推進していきます。また社会福祉法人としてのあるべき姿を追求し、地域に必要とされる法人を目指します。

方針

地域福祉の推進

私たちはすべての人の「しあわせ」を考えた地域を目指します。

私たちが暮らしを営む中で、「しあわせ」を感じる時には、満足感や安らぎ、そして自然と笑顔がこぼれます。「福祉」とは「しあわせ」や「ゆたかさ」を意味します。私たちが考える社会福祉とは、生活上支援が必要な方に生活の質が維持、向上するためのサービスを提供する事です。こうした活動の中で、支援を必要とする方々を含め、より多くの方が「しあわせ」を感じる事の出来る地域を目指します。

権利の尊重

私たちはすべての人の尊厳を尊重し、自分らしさの実現を支援します。

憲法で保障された基本的人権の尊重を遵守し、差別なく、どのような個性や環境をお持ちの方であっても、私たちはその人らしさを大切にし、その言葉や意向に耳を傾けます。そして生活の中での楽しみや働く喜びなど、自分らしさを実現する支援をします。

法令の遵守

私たちは法令を遵守して、社会に信頼される法人であり続けます。

社会福祉法人は公共の利益を目的とした法人です。私たちは法令を正しく守り、社会の信頼を得るために積極的に情報公開や説明責任を果たします。

人材の育成

私たちは専門家としての自覚を持ち、創造力と向上心を発揮する職員を育成します。

私たちは人の「しあわせ」を目的としており、人との関わりが非常に大切です。専門職としての充実と共に人間力が必要とされます。法人は職員を人として、なおかつ福祉従事者として十分に成長出来るような取り組みをし、地域が必要とする人材を育成します。

経営の安定

私たちは持続可能な福祉の実現に向けて、経営基盤の安定に努め、社会的責任を果たします。

国の施策方針や景気の変化にも耐えうる為の経営努力を怠らず、なおかつ安定したサービスの提供を継続していくことが、めぐみ会に与えられた社会的責任と考えます。

職場環境の充実

私たちは心身共に健康で、安心して長く働ける職場環境をつくりまします。

質の高いサービスを提供する為には職員が心身共に健康でなければなりません。その為に生活と仕事のバランスがとりやすい職場環境を配慮し、職員が健やかで長く勤められる職場を目指します。

CREDO

～私たちの使命と求める職員像～

私たち社会福祉法人めぐみ会は、地域の福祉を担うため社会から多くの求めを受けています。それを私たちは自らの使命として掲げその務めを果たします。

私たちの使命は、地域社会のしあわせを考えた組織活動を行うことです。それは私たちが地域社会の一員であり地域と共に歩む存在だからです。

- 1) 法令を遵守し、誰からも信頼される組織作りを行います。
- 1) 地域の活動に積極的に参加します。
- 1) 地域の方々にめぐみ会の活動を発信します。
- 1) めぐみ会内外の人々の声に耳を傾け、社会福祉法人として正しい行いをします。

私たちの使命は、利用者・家族に安心してサービスを利用していただける環境を作ることです。

それは、私たちが利用者の自分らしく自立（自律）した暮らしの実現を強く願っているからです。

- 1) 利用者の思いを第一に同じ目線で考え、行動します。
- 1) 利用者の状況把握に努め、適切なサービスを提供します。
- 1) 利用者・家族へ対する敬意を忘れることは決してありません。
- 1) いつも元気にあいさつをし、すべての人々とのコミュニケーションを大切にします。

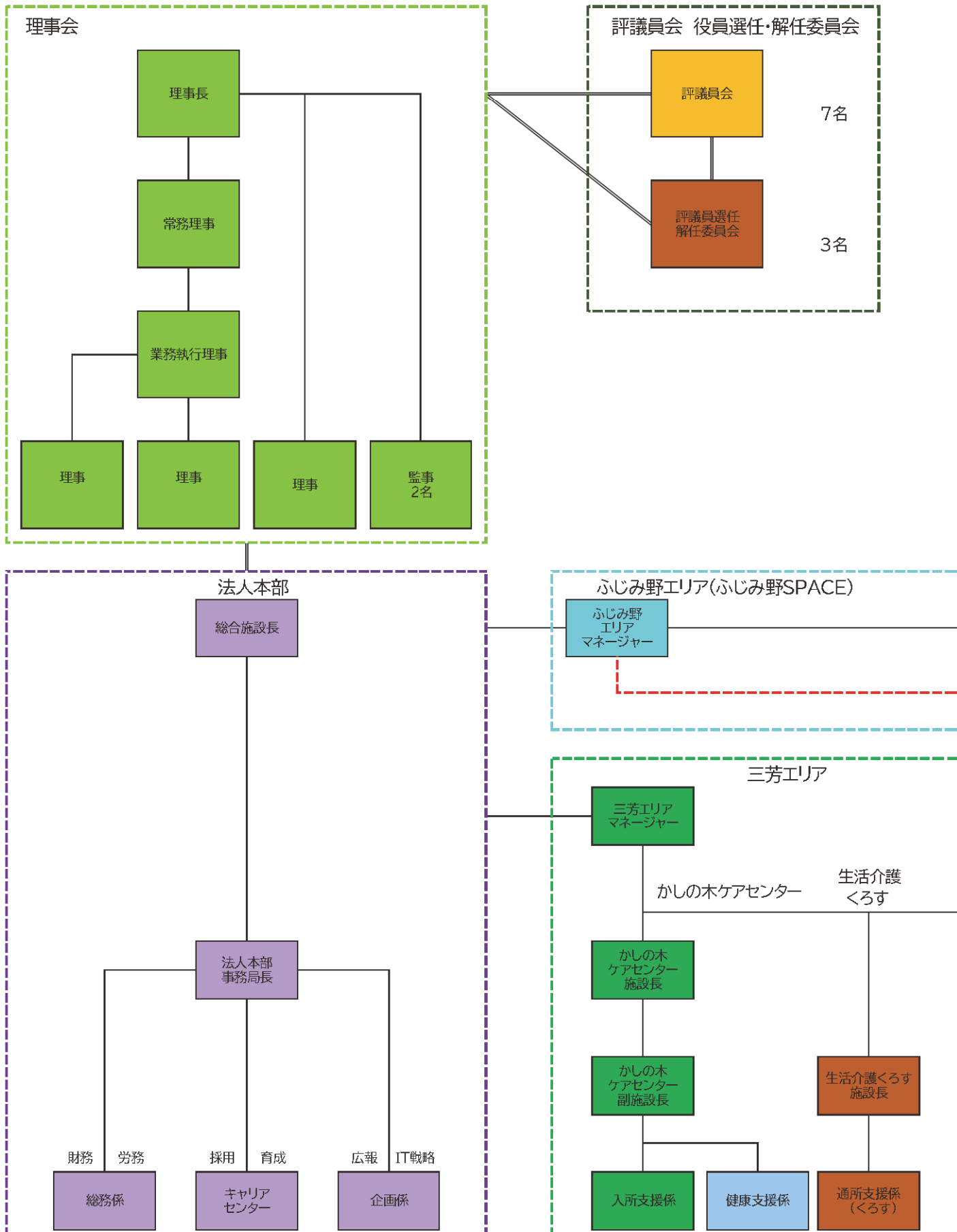
私たちの使命は、専門職としての価値観を持ち、社会人として責任ある行動をとることです。

それは私たちが知識・技術を持つ福祉専門職であり、個性ある人格を有した社会人だからです。

- 1) 社会人として礼儀を重んじ、自らの言動に責任ある行動をします。
- 1) 常に向上心を持ち、どのような場面からも学ぶ姿勢を忘れません。
また、すべての職員が能力の開発の為その機会を得ることができます。
- 1) 一人一人の職員は認められた存在です。互いを尊重し認め合うことでより良い職場環境を自らの手で作り出すことができます。

IV. 組織図

■ 社会福祉法人めぐみ会役職員体制図（2025年4月）

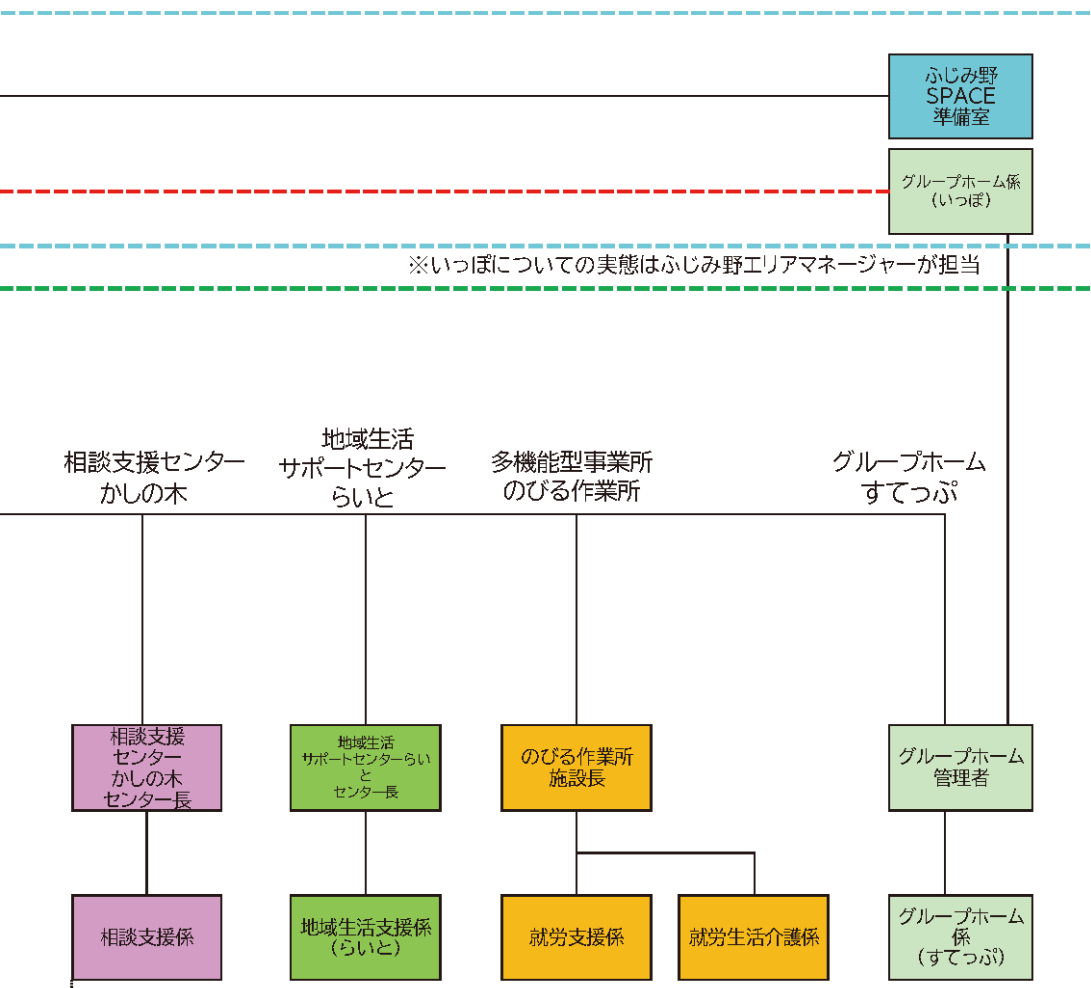


※企画係の主な業務
①広報ブランディング ②IT戦略 ③海外事業戦略とする

※管理栄養士、栄養士は
各担当事業所(入所支援係、通所支援係)へ配置

理事長	田中 利夫	評議員	伊藤 晋也
常務理事 兼 総合施設長	福應 涉	評議員	大野 操
業務執行理事 兼 三芳エリアマネージャー 兼 かしの木ケアセンター施設長	鈴木 市郎	評議員	神戸 章
理事(外部)	山下 正仁	評議員	中山 四郎
理事兼事務局長 兼 ふじみ野エリアマネージャー	大川 空湖	評議員	町田 晴美
理事 兼 生活介護くろす施設長 兼 グループホームすてつぷ管理者	北田 壮	評議員	目良 義延
監事	鈴木 喜代子	評議員	山本 進
選任・解任委員兼監事	村瀬 紀美了		
役員選任・解任委員	松本 千安紀		
選任・解任委員 兼 かしの木ケアセンター 副施設長	大橋 直斗		

のびる作業所 施設長	小菅 晋也
地域生活サポートセンター らいと センター長	青木 栄梨華
相談支援センターかしの木 センター長	鈴木 隆之



第2号議案

1. 長期12か年計画

福祉新時代の創成期を歩む

日本では少子化による介護人財不足が深刻化し、戦争やAIの進化など、これまでの常識が通用しない社会情勢の中で、福祉・介護の領域は創意工夫の時代に突入しています。いかに従事者を確保するか、また新しい社会課題にどのように取り組むかなど、福祉、介護現場の実践者が試行錯誤を繰り返しながら、新しい形を作らなければなりません。

制度のない福祉の創成期に、かつての福祉実践者たちが手探りで現在の福祉の形を築き上げてきたように、少子化が始まってから高齢者数の高止まりが起こる2040年前後までが、福祉新時代の創成期だと考えています。したがって2025年現在、福祉、介護現場で活躍する者、福祉・介護の実践者は現サービスを高めつつ、新しい福祉の形を作り上げることがこの時代の福祉実践者の責務です。

そのような時代背景のもと、私たち社会福祉法人めぐみ会が目指すのは、こころのある、地に足の着いた福祉の実践の上で、単なるサービスの提供ではなく、福祉の枠を超えたクリエイティブな発想で未来の地域や福祉の形を創造することです。また同時に、経営の安定と持続的な成長が最も重要な事項の一つであることを深く認識し、社会福祉法人としての使命を果たしつつ、確実に利益を確保し、経営を強化することで、未来へつながる基盤を築いていきます。

以下の5点が最重要項目となります。

《1. コンプライアンスとガバナンスの再定義》

従来の枠を超えた次世代型ガバナンスを構築し、法人内外に対して強固な信頼と革新的な姿勢を示します。透明性と効率性を兼ね備えた新しいガバナンスで、財政的な強化を図りながら、地域社会に貢献する持続可能な経営を実現します。次世代型ガバナンスの代表としてエリアマネージャー制度を導入し、それぞれの地域課題を的確に把握し、よりスピーディーな事業展開を可能にする体制を構築します。また IT 戦略、グローバル人財、ビジュアルブランディングなどこれからの福祉に必要な要素に取り組みめるよう組織を整備します。

《2. サービス品質のさらなる向上と福祉ブランド構想》

現在利用されている方々、一人ひとりの暮らしに寄り添った堅実な支援を中心に 福祉サービスの質をいかに高められるかを常に検証し、利用される方々に満足を提供します。そして新たにテクノロジーとアートの要素を取り入れ、福祉サービスに新しい風を吹き込みます。テクノロジーの力で科学的に利用者をサポートし、アートの感性によって心豊かな体験を提供し、クリエイティブな福祉の形を具現化します。その中で、私たちめぐみ会は、各エリア独自のニーズに応えるべく福祉ブランド構想を展開していきます。

その第1弾として「ふじみ野SPACE」を予定しています。このブランドは、エリアマネージャー制度と連動して地域に根ざしたサービスを提供し、利用者が安心して暮らし、挑戦できるサービスブランドを目指します。新しい発想を取り入れたサービスを展開することで、地域の期待に応え、確実な利益を確保し、利用者や地域社会に還元します。

《3. 人財育成のパラダイムシフト：多様性とグローバル化への対応》

未来の福祉を担う人財を、単に育てるのではなく、私たちは創り出します。福祉の常識に挑戦し、新しい発想を持つ次世代リーダーを育成することを目指しています。「おしえ合う」「つたえ合う」の文化の再構成を目指し、良好な人間関係と正しい知識や技術、そして積極性を習得するサポートをします。心理的安全性が保証されることで、個々の学びと成長を活性化するため、あらゆるバックグラウンドを持つ人財に対しても心理的安全性を重視し、スタッフが自由に意見を表明できる環境を整えることで、真の創造性と成長を引き出します。

私たちは、利用者や困りごとのある地域の方々に寄り添える人間性、福祉の技術や知識に加え、科学的な洞察力とアートの感性を持ち、創造力を発揮できる多様な人財を育てます。そのためには、誰もが安心して学び、挑戦できる環境が欠かせません。心理的安全性は、多様な人財が互いに信頼し合い、チーム全体が協力して福祉の革新に取り組むための基盤となります。

また、福祉業界はグローバル化が急速に進展しており、私たちは積極的に外国人人財を導入し、多様性を活かした育成を行っています。さらに外国人人財が安心して意見を述べ、専門性を発揮できる環境を整備し、外国人人財が日本の福祉現場で即戦力として活躍できるよう、専門的な研修プログラムを実施します。外国人人財が活躍することで、私たちめぐみ会の人財は、異なる文化や視点をもち、組織全体がグローバルな視野を持って成長することが可能です。

《4. 経営の多角化と利益確保：未来への投資》

私たちめぐみ会の経営戦略は、福祉の枠を超えた発展を目指しつつ、確実に利益を確保し、財政基盤を強化することが優先事項です。既存事業の収支分析とデジタル技術、自動化を活用した最適化ならびにコスト削減により、事業の効率化と経営の安定を確保します。さらに既存事業の安定化とともに、クリエイティブな発想を融合させた新たなサービスを通じて経営を強化し、未来志向の投資により、次世代福祉サービスの基盤を構築し、多角化の実現と競争力を高め、持続可能な成長を遂げます。

《5. 災害に強い法人作り：リスク管理とレジリエンスの強化》

私たちは、自然災害や予測できないリスクに強い法人を目指します。福祉サービスの提供を中断させないために、リスク管理と災害対策を徹底し、レジリエンス（回復力）を高めた組織作りを進めます。災害発生時にも、利用者や職員の安全を最優先に、迅速かつ柔軟に対応できる体制と環境を整え、地域社会と共に安心して暮らせる環境を提供します。そのために各事業所では防災訓練の定期実施と訓練精度の強化が必須事項です。また、自法人のリスク管理体制の再整備とBCPマニュアルの継続的なアップデートを行い、地域と連携した災害時の支援体制の構築のため、行政等と検討を行っていきます。

《おわりに》

この「新・長期12か年計画」のもと、私たちは福祉の枠を超えて新しい価値を創造し、「ふじみ野SPACE」を皮切りに、各エリアのニーズに応える福祉サービスを展開してまいります。そして、経営の厳しい現状を直視し、確実に利益を確保しながら未来を切り開く姿勢で、持続可能な福祉サービスを提供してまいります。外国人財との協働を通じて、グローバル化する福祉業界でリーダーシップを発揮し、福祉新時代に生きる私たちの責務として未来を創り上げていく決意です。

2.3 3年計画（2025年度～）[項目別]

法人本部：総務

取り組み

■ エリアマネジメント制度の確立

新たに各地域をエリアとし、専任のマネージャーを配置します。これにより、地域ごとのニーズに対応し、地域密着型の対策を推進します。この3か年は「三芳エリア」と「ふじみ野エリア」に分けそれぞれのニーズに合ったサービスを展開していきます。またその他の地域のニーズを調査し次の展開への準備をします。

■ アニメーション制作と発信

福祉の魅力向上実行委員会や近隣の学生と連動し、アニメーションを使用した福祉・介護についてのプロモーションを研究します。

- ◆現在のコンテンツの活用方法の研究
- ◆福祉の魅力向上実行委員会への参加
- ◆近隣学生を集めてのワークショップ実施

■ 「おしえ合う」「つたえ合う」の文化の醸成

- ◆海外事業、専門学校、内部研修等における講師の養成
「おしえ合う」「つたえ合う」文化の醸成には教える・伝えるスキルを持った職員の育成が必要です。海外事業における介護教育への参画、介護福祉士養成校における講師、法人内部研修（階層別研修）における講師経験などの機会を提供し、職員のスキルアップに取り組めます。
- ◆「おしえ合う」「つたえ合う」要素を持った内部研修を構成
法人内部研修をはじめ、研修講師を職員が務めることができるようプログラムを構成します。また従来のブラザー・シスター（メンター）制度が強化されるよう取り組めます。
- ◆各階層別研修においてコミュニケーション技術系研修を実施
新人・中堅・リーダー・経営幹部候補者それぞれの階層に求められるコミュニケーション技術について、その醸成を促すための研修を積極的に取り入れたプログラムを構成します。

■ 外国人財の研修プログラムの構築と実践

- ◆外国人財向けの日本語教育プログラムの実施
今後外国人財の登用は増加の見込みであり、双方が安心してその能力を発揮し活躍できる環境づくりには日本語教育を積極的に行う必要があります。各事業所に配置される外国人財が活用できる日本語教育プログラムの開発、提供に取り組めます。
- ◆多文化理解を深める取り組み
めぐみ会ではすでにベトナム、中国、モンゴル、フィリピン、そして日本人が協働しています。職員定着の基礎となる心理的安全性の確保が円滑に促進されるよう、多様性を尊重し相互理解を促すための交流の機会を提供します。

■ 海外事業との接点の強化

海外での人材育成の実施を行い、良質な外国人介護スタッフの獲得、および育成側の日本人スタッフのスキル向上と人生においてかけがえのない経験を提供します。

- ◆実習指導者研修、実務者教育研修会、養成校での非常勤教育経験などの機会を作り、日本の「福祉や介護の実践力」を高めます。
- ◆Kaigo福祉Labと協働し、海外養成施設の運営に関わります。
- ◆Kaigo福祉Labと協働し、海外での福祉資源構築に関わります。

■ 経営基盤の安定

事業収入8億円、利益率2.5%を目指すための中期計画を設定し、その達成に向けて取り組めます。この目標を達成するために、収入と支出の最適化を模索し、収支改善を行います。事業内容や運営方法の見直しを行い、効率的な経営を実現します。

取り組み

■ 未来志向な利用者支援、新規事業への投資:

法人本部に企画係を創設し、IT戦略、外国人財戦略、新福祉ブランド開発を含めた法人ブランディング担当者を配置し、利用者支援の向上と継続性に関する取り組みに対して予算、人的投資を行います。

■ 地域と連携した災害時の支援体制の構築に向けた検討を開始

三芳町福祉施設連絡協議会をはじめ関係機関との連携し、有事の支援体制の構築に向けた検討をおこないます。

新規事業準備室

取り組み

■ 新規事業の開始に向けた取り組み

生活介護事業及び日中支援型共同生活援助事業の開始に向けて、広く新規事業所の開設を周知し利用者の獲得に取り組めます。また地域の防災計画に応じた体制整備の検討、BCPの策定など利用者が安心して利用を開始できるための準備をおこないます。事業開始時において効率的かつ安定的な運営ができるよう、ICTやAIの導入について積極的に検討します。

■ 事業の安定に向けた取り組み

事業開始後において早期に運営が安定できるよう、利用率の管理に取り組めます。また日本人スタッフだけでなく外国人財が活躍できる職場となるよう人財育成とICTやAIの活用に取り組めます。

■ 『S・P・A・C・Eブランド基準』の具現化

生活介護事業及び日中支援型共同生活援助事業は、ふじみ野SPACE1号となる事業です。ふじみ野SPACEのブランド基準を具現化し他の事業のモデルとなれるよう基準の達成に向けて積極的に取り組めます。

■ ふじみ野SPACEの広報

新たにめぐみ会が展開する新拠点であるふじみ野SPACEを広く地域の方々に知っていただくための広報活動を行います。

かしの木ケアセンター：施設入所支援係

取り組み

■ 人財力向上のため、安心して学び、挑戦できる研修プログラムの構築と実践

開所から現在に至るまで、時代に応じた利用ニーズ、地域に求められる機能を追求してきました。多様化するニーズに対応していくためには担い手の人財力の向上は不可欠です。そのため、以下に取り組みます。

- ◆既存のOJT研修と育成プログラムの評価
- ◆多様なキャリア経験や国籍に対応した新たな育成プログラムの構築
- ◆職員を講師とするオンライン研修を実施し、「おしえ合う つたえ合う」文化の醸成
- ◆YouTubeを活用した教育動画コンテンツを作成し、いつでも学べる環境を提供
- ◆業界外からの人財採用と定着の取り組み
- ◆部活動の発足や職員交流、イベントの充実

■ 利用者の多様性を引き出し、発展的な活動の提供

これまでの取り組みや、地域に存在する歴史的背景のある文化を踏襲しつつ、新たな文化・風習を創造、発信します。

- ◆フェスの開催、e-スポーツを交えた活動等の創造と発信
- ◆多様な活動を通じて、利用者の参加機会と生産活動の拡充

■ 快適な生活を送るための最適化

かしの木ケアセンターの開所から30年目を迎えるにあたり、より快適で選ばれる施設、居住環境となるよう、以下に取り組みます。

- ◆医療機関との連携体制強化
- ◆円滑な利用調整のために業務プロセスを改善し、予約システムを再構築
- ◆新たな介護機器を導入し、利用者の利便性と安全性の向上。
- ◆ChatGPTを中心としたAI技術やICT、IoTの導入検討と準備
- ◆KCCのブランディング
- ◆経営の効率化を図り、利益率2.5%を目指す。
- ◆大規模災害を想定した訓練と備えの強化

■ 衛生的かつ安心・安全で良質な食事の提供

衛生的かつ安心で安全な食事提供のため、厨房と連携し事故防止や品質管理に取り組んできました。また、栄養ケアマネジメントや経口維持加算を開始したことで、日々の食事提供と利用者個々の栄養管理がより密接したものとなりました。一人一人の機能や状態に合わせた安心で安全な食事提供となるよう以下に取り組みます。

- ◆厨房職員との情報共有・連携の強化
- ◆施設入所者の食形態の見直し
- ◆栄養ケアマネジメントの継続実施

■ 利用者に喜ばれる食事の提供

イベント食や選択食、行事食などを実施していく中で、食事を楽しみにされている利用者の声が多く聞かれました。食を生きがいにされている利用者の方々のために、より個々の意思や望みを叶えられるイベント食の充実に取り組みます。

- ◆選択食、イベント食、リクエスト食の実施
- ◆テーブル・食器類の変更

■ おいしい食事の提供

利用者からの日々の感想や、検食簿や嗜好調査の意見を取り入れ、利用者・職員ともに満足いただけるよう食事の質の向上・食環境づくりに取り組みます。また、地域の方々にも施設を知っていただけるよう食事を提供する機会をつくります。

- ◆嗜好調査・検食簿評価の改善
- ◆かしの木カレーの販売

かしの木ケアセンター：健康支援係

取り組み

■ 利用者の健康状態悪化予防の取り組み

利用者の加齢や疾患による健康状態悪化のリスクは決して低いものではないと考えられます。医療職、介護職がワンチームとなり健康状態悪化を予防し、利用者が健康に暮らし続けられるよう取り組みます。

医療職と介護職が協働し口腔衛生管理体制を整え、口腔衛生の強化を図ります。

- ◆介護職等が歯科医師や歯科衛生士の助言や指導を受けられる仕組み作り
- ◆個々の利用者に合わせて口腔衛生の実施

多職種で食事時のシーティング評価を実施し、誤嚥性肺炎予防に努めます。

- ◆利用者の食事姿勢の評価
- ◆車椅子シーティングの問題点抽出と改善
- ◆2025年度からの誤嚥性肺炎発生数を評価し対応策の再検討

医療的ケアのある方の受け入れ準備を行います。

- ◆入所・SS利用のニーズ把握
- ◆夜間や緊急時の体制などの検討

■ リハビリ作品を通して文化・芸術的活動への参加

利用者が施設内において創作リハビリや塗り絵を行い、これまでも法人内や身障協主催の作品展に出展してきました。2025年度以降は、作品を出展する範囲を拡大することや、地域の芸術関連の講座やサークルに参加し地域の方との交流を図れるよう取り組みます。

利用者がリハビリで作成した作品を通じて文化や芸術により多く触れる機会を作り、地域との交流を図ります。

- ◆法人内・身障協文化作品展・福祉祭りに出展
- ◆従来参加していたもの以外の作品展に出展
- ◆近隣市町村主催の文化・芸術に関する講座やサークルに参加

生活介護 くろす

取り組み

■ 医療的ケアの受け入れ体制の強化

医療的ケアのある利用者のニーズに応えることができる、地域で唯一の事業所としてこれまでも受け入れをおこなってきました。今後も地域にとって必要な施設として選ばれ続けるため、受入れガイドラインや送迎体制等の定期的な見直し、医療的ケアの研修の継続等をおこない、新規利用者の受入れと現利用者の利用日数の増加に対応できる体制づくりをおこないます。

■ 事業の安定化への取り組み

利用者が安心して利用し続けるためには事業の安定化が必要です。職員ひとり一人が力を発揮して、ニーズの高いサービスを充実することにより『地域で選ばれ続ける施設』となれるよう取り組みます。

◆入浴支援の提供

医療的ケアと並んでニーズの高い入浴について、リフターの活用や入浴体制の見直しを行い必要な方にサービスが提供できるようにします。

◆リハビリの提供と満足度向上に向けた取り組み

リハビリについて意欲的な利用者が増えているので、P Tと連携を取りながら様々なリハビリの提案と実施をおこない利用者満足度の向上に取り組みます。

◆創作（アート）活動の強化

前3か年で創作活動は中心的な活動となってきました。今後は利用者が制作した作品をパンフレット等広報活動に活かしたり、アートの製品化に取り組むなど取り組むなど、活動の強化に取り組みます。

◆業務の効率化に向けたICT, AIの導入に向けた検討

職員が現場で充分力を発揮できるように、事務時間の軽減に取り組みとICTの導入を検討します。

◆災害等対策と事業継続への取り組み

感染症の蔓延や災害時の様々な状況でも継続的な事業運営が行えるように、BCPの定期的な見直しと訓練を行います。

■ サービス品質向上

地域で選ばれ続ける施設になるためにはサービスの質の向上は継続的な課題です。サービスを支える職員の質の向上のため、新人職員の育成方法の見直しや課題に気づき解決できる職員の育成に取り組みます。また定期的に利用者満足度調査を実施して、評価・改善をおこないます。

相談支援センター かしの木

取り組み

■ 計画相談の新規受け入れ人数増のための取り組み

現在、相談支援のニーズは高まっており、自治体によってはセルフプラン率も上がっています。定められた人員体制でどれだけの人数の利用者と向き合い、質の高い支援を行う時間がとれるかが課題です。

私たちは年間の新規相談の受け入れ数の増加を目標に、収益の最適化と業務の効率化を図るため1件当たりの支援記録時間の削減を目的としたICTやAIの導入に取組みます。

■ 職員定着のための取り組み

私たちが地域に求められる相談支援事業所としてあり続けるためには、職員体制の安定が重要です。職員定着のためには相談支援センターかしの木職員のよりどころとなるビジョン（行動指針や判断基準）が必要です。そのために現在所属している相談員たちの知識を相互補完する（「おしえ合う、つたえ合う」）場を持ち、相談支援センターかしの木としての価値観、経験を共有、醸成します。

また新旧の職員が戸惑うことなく安心して業務に専念できるよう、マニュアルと研修体制の整備を行います。さらに、職員のモチベーションの維持向上を目的とした他機関との連携強化に取り組みます。

■ 災害時の対応に対する取り組み

大規模な感染症の発生や非常災害時でも利用者支援を継続しなければなりません。そのような時に必要とされる相談支援事業所だからこそ、できる限り支援を継続できる体制を維持するための対策が必要です。その為にBCPを定期的に見直し、これを基に訓練を行い実践力を身に付けます。

地域生活サポートセンター らいと

取り組み

■ 品質の向上、維持して継承していくための取り組み

地域のヘルパー事業所から、らいとを選んでもらうためには、品質の向上と維持が必要だと考えます。品質を評価（CS）し、良い評価は維持するとともに、ヘルパーが変わっても継承できるような仕組みを検討します。また、良くない評価については対策を検討して実施します。CSは、3年ごとにおこない、定期的な評価をおこないます。

■ 求められる職員像の共有と障害理解を深める取り組み

らいととは、1対1での支援がほとんどです。利用者1人1人と常に向き合い、それぞれに合った支援をその場で考え、的確におこなえることが求められます。

まずは、らいとが求める職員像を文章化し、職員に共有します。そして、その求められる職員になれるように、利用者の障害理解を深められるような事業所内研修をおこないます。

登録ヘルパーも研修に参加できるよう、ICTを活用した研修方法を検討して実施します。

■ 事業の安定化に向けての取り組み

らいとの課題として、朝と夕方に業務が集中し、日中にヘルパーの空き時間が出るのがあげられます。事業の最適化・安定化には、この空き時間を有効に使えるような仕組みが必要だと考えます。

ヘルパーの空き時間を無駄なく有効に使えるように、法人内他事業所との兼務を視野に効率化を検討します。

また、災害時などの緊急時にも安心して利用していただけるよう、BCPの策定と研修を実施するとともに、緊急時に少しでも事業が継続できるように工夫していきます。

のびる作業所

取り組み

■ 多様なニーズに合わせた支援強化への取り組み（就労支援係）

現在、就労継続支援B型の利用者が定員の約倍になっています。このため、一般企業の障害者雇用率拡大の影響で地域ニーズが低下している就労移行支援事業を廃止し、就労継続支援B型の定員を拡大することにより、地域の利用者ニーズに対応します。

就労継続支援B型であっても一般企業への就職が出来る様取り組みを実施していきます。

- ◆施設外就労の継続と参加者適正の評価
- ◆一般就労への理解を深める取り組み
- ◆作業工賃の支給方法の検討

一般企業への就職だけに囚われず各利用者が少しでも望む生活に近づいていけるよう個々の能力を伸ばせるような取り組みを実施します。

- ◆就労継続支援B型のプログラム見直し
- ◆効率よく安全に活動できる作業スペースの検討
- ◆安定した作業の確保
- ◆文化芸術活動への参加

■ 定員の見直し・新たな活動の取り組み（就労生活介護係）

サービス開始から7年が経過し利用者数が当初の3倍に増えたため、活動場所が手狭で機能的に合わなくなり、SPACEの生活介護開所に伴い利用定員の見直しと活動場所の広さ・機能の確保、新たなニーズ調査を実施してより充実した活動を図ります。

より充実した活動に向けた取り組み

- ◆新たな活動内容の検討、実施
- ◆生産活動の再評価
- ◆文化芸術活動への参加
- ◆社会性やマナーを身につける取り組みの実施

■ 安定した運営への取り組み

運営が安定することは、ご利用者の利益へとつながります。就労支援係、就労生活介護係共に、定員変更を実施するにあたり、利用率の管理を引き続き行っていきます。

- ◆就労継続支援B型 年間利用率100%の維持
- ◆生活介護 年間利用率100%
- ◆事業所年間収益率 2.5%の維持

近年起きている激甚災害、感染症まん延時の混乱を最小限に抑えられるようBCPを活用した取り組みの継続と共に太陽光発電設備などの再生可能エネルギーの調査をいたします。

- ◆定期的なBCPの見直しと定期的な訓練の実施
- ◆非常電源の検討

多様なニーズに対応できるよう人材育成の機会を設けより質の良い支援ができる様努めます。

- ◆多種多様な障害への理解を深める研修への参加
- ◆復命研修の実施
- ◆ICT、DX、AIの調査
- ◆CSの実施

グループホームすてっぷ：すてっぷ・いっぽ

取り組み

■ 事業の最適化・安定化への取り組み

すてっぷ

- ◆短期入所事業の安定した利用に向けた取り組み

いっぽ

- ◆いっぽの移転に向けた取り組み
いっぽ事業所移転へ向けた準備を進めていきます。

共通

- ◆I C T等の活用へ向けた検討
グループホームにおいて活用できるものがあるのか調査検討をしていきます。
- ◆事業の効率化や運営コストの検討
事業の効率化を測り、コストカットや見直しをおこない、安定した運営につなげていきます。
- ◆内部、外部研修へ参加し、専門的な人材の育成をおこないます。

■ C S（顧客満足度調査）のへの取り組み

共通

- ◆定期的なC S調査の実施と評価
定期的なC S調査の実施と、その結果を踏まえたサービスの改善に取り組み、サービス品質の向上を図ります。
また、取り組みにより法人ブランドのイメージ向上や新規利用につなげていきます。

■ 安全で安心できるくらしの取り組み

すてっぷ

- ◆空調設備などの付帯設備の修繕をおこないます。
設立から17年経過し設備の老朽化、耐用年数の経過により修繕が必要な個所が増えているため計画的に取り組みます。

いっぽ

- ◆迅速な医療との連携と通院への対応として訪問医療導入の検討

共通

- ◆災害に対する取り組み
 - ・B C Pに基づいた防災食の備蓄、訓練を定期的におこないます。また、地域の防災訓練への参加や関係機関とつながりを持つことで、災害時に対処できるように進めて行きます。
 - ・電源現供給が途絶えた際の電源確保のために非常電源設備の検討をおこないます。
- ◆感染症に対する取り組み
 - ・B C Pに基づいた感染対策用具の備蓄、訓練を定期的におこないます。
また、持続可能な感染症対策をおこなっていきます。
- ◆防犯に対する取り組み 防犯グッズの設置 センサーライトの設置 防犯カメラの設置

① 2025年度各種委員会および会議等の構成

理事会・評議員会事務局・・・総合施設長、各施設長等、法人本部

■ 各種委員会

委員会名	業務	担当・事務局
危機管理委員会	下記の部会の総称。各部会の実施 ①事故防止部会 ②権利擁護・虐待（身体拘束）防止部会 ③防災・防犯部会 ④安全・衛生・働きやすさ部会	各事業所から選任 事務局 1名選任
苦情解決委員会	苦情の相談受付、解決の実施、指導	経営会議参加者 事務局 1名選任
個人情報保護委員会	個人情報の取り扱いに関する 体制・基本ルールの策定	経営会議参加者 事務局 1名選任
行事委員会	法人行事の立案および実施	各施設から選任 事務局 1名選任
広報委員会	広報誌の発行やWEBを主とした 法人の広報活動	各施設から選任 事務局 1名選任
感染症対策委員会	新型コロナウイルスをはじめとした 感染症対策およびBCPマニュアル に関わる訓練の実施	各施設から選任 事務局 1名選任

■ 各種会議

会議名	開催日時	構成員	事務局
執行役員会議	毎月1回	執行理事	事務局 1名選任
経営会議	毎月1回	理事長 総合施設長 施設長 副施設長 センター長 サービス管理責任者等	総務係
職員会議	年2回 6月・3月	全職員	6月 かしの木・くろす等 3月 のびる・すてつぱ
各事業所運営会議	事業所ごとに設定	事業所ごとに設定	事業所ごとに設定

②各計画およびスケジュール

法人本部

■第1期3か年計画

- 1 エリアマネジメント制度の確立
- 2 アニメーション制作と発信
- 3 「おしえ合う」「つたえ合う」文化の醸成
- 4 外国人人材の研修プログラムの構築と実践
- 5 海外事業との接点の強化
- 6 経営基盤の安定
- 7 未来志向な利用者支援、新規事業への投資
- 8 地域と連携した災害時の支援体制の構築に向けた検討を開始

■2025年度取り組み

1 エリアマネジメント制度の確立

実施内容	実績
◆エリアマネージャーを組織的に導入し、配置します	
◆キャリアパス規程、キャリアパス要件等を更新し、各等級の役割、評価基準を改めて設定	
◆エリアマネージャーを中心に「ふじみ野SPACE」を無事開始	
◆新規事業及び既存事業安定のための新卒採用を実施（5名）	

2 アニメーション制作と発信

実施内容	実績
◆近隣学生等と「アニメ×福祉」についてのワークショップを実施（年2回）	
◆現在のコンテンツ（Your Life Change My Life）の効果的発信	

3 「おしえ合う」「つたえ合う」文化の醸成

実施内容	実績
<p>◆海外事業、専門学校、内部研修等における講師を養成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外事業における介護教育への参画 ・介護福祉士養成校（専門学校）への講師派遣 ・内部研修における講師の増員 （正職員のうち、階層別研修にて講師をおこなった職員の人数） 	<p>・（2024年度実績 28人）</p>
<p>◆「おしえ合う」「つたえ合う」要素を持った内部研修を構成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内部研修講師の育成 ・ブラザー、シスター制度の強化のための育成 	
<p>◆各階層別研修においてコミュニケーション技術系研修を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新人研修 ・中堅研修 ・リーダー養成研修 ・リーダー研修 ・経営幹部候補者研修 	

4 外国人財の研修プログラムの構築と実践

実施内容	実績
<p>◆外国人財向けの日本語教育プログラムを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OJTによる日本語指導の定着への取組み ・オンラインによる日本語教育の実施 	
<p>◆多文化理解を深めるための取組みを実施</p>	

5 海外事業との接点の強化

実施内容	実績
<p>◆海外での教育を担う人財を育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士取得者を4名増加 ・介護養成校講師4名 実習指導者研修2名 ・実務者研修講師の活躍の場の確保 	
<p>◆海外への講師派遣の実施 （10日間 × 2回 / 年）</p>	

6 経営基盤の安定

実施内容	実績
◆6か年の中期経営計画を作成	
◆資金収支差額（修繕積立前）の収入比率 2.5%を目標	
◆減価償却相当分の修繕積立金および人件 費を積立（減価償却相当83.6%）	
◆年間事業活動収入8.4億円を目標	

7 未来志向な利用者支援、新規事業への投資

実施内容	実績
◆現在までに導入したソフト、アプリケー ション、機器の評価	
◆法人本部企画係に広報担当を配置し、広報 戦略を基にSNSグランドデザインを構築	
◆SNSの連動性を可視化し、各アプリケー ション毎の数値目標を設定	

8 地域と連携した災害時の支援体制の構築に向けた検討を開始

実施内容	実績
◆各エリアが関係する機関と連携し、災害 時の体制の構築に向けた検討を実施	

新規事業準備室

第1期3か年計画

- 9 新規事業の開始に向けた取り組み
- 10 事業の安定に向けた取り組み
- 11 「S・P・A・C・E部ブランド基準」の具現化に向けた取り組み
- 12 ふじみ野SPACEの広報

2025年度取り組み

9 新規事業の開始に向けた取り組み

実施内容	実績
◆利用者の獲得に向けた取り組みを実施 <ul style="list-style-type: none"> ・生活介護事業の利用者の獲得に向けた取り組み ・日中支援型グループホームの利用者の獲得に向けた取り組み 	
◆ICTやAIの導入に向けた検討を実施	
◆利用者が安心して利用できる施設づくりへの取り組み <ul style="list-style-type: none"> ・地域の防災計画等に応じた体制の整備について検討 ・災害用BCP、感染症対策BCPを策定し、必要な訓練等の実施 	

10 事業の安定に向けた取り組み

実施内容	実績
◆生活介護事業所の利用率90%を達成	
◆職員の多様性と業務の効率化に対応したICT、AIの導入、活用	
◆事業の安定とチームビルディングのための研修の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止、BCP等の必須研修の計画的な実施 ・新しいチーム作りのための取り組みの実施 	

11 「S・P・A・C・Eブランド基準」の具現化に向けた取り組み

実施内容	実績
◆『S：満足』 ES、CSを実施および定期的な事業の 評価	
◆『P：平和』 ふじみ野SPACEのコンセプトにちな んだ事業所の空間づくりへの取り組み	
◆『A：地域』 地域交流のための活動を年に1回以上実施	
◆『C：挑戦』 利用者、職員、地域の人々の未来に向けて、 福祉×〇〇に挑戦	
◆『E：楽しい』 利用者や地域の人々の笑顔があふれる事 業所づくりに取り組み、SNS等でその 成果を発信 ※下記項目のとおり実施します	

12 ふじみ野SPACEの広報

実施内容	実績
◆ホームページやSNS等を活用したふじ み野SPACEの広報への取り組み ※ブランド基準の『E：楽しい』	

かしの木ケアセンター：入所支援係

■ 第1期3か年計画

- 13 人財力向上のため、安心して学び、挑戦できる研修プログラムの構築と実践
- 14 利用者の多様性を引き出し、発展的な活動の提供
- 15 快適な生活を送るための最適化
- 16 衛生的かつ安心・安全で良質な食事の提供
- 17 利用者に喜ばれる食事の提供
- 18 おいしい食事の提供

■ 2025年度取り組み

13 人財力向上のため、安心して学び、挑戦できる研修プログラムの構築と実践

実施内容	実績
◆既存のOJT研修と育成プログラムの評価	
◆多様なキャリア経験や国籍に対応した新たな育成プログラムの構築	
◆職員を講師とするオンライン研修を実施し、「おしえ合う つたえ合う」文化の醸成	
◆YouTubeを活用した教育動画コンテンツを作成し、いつでも学べる環境を提供	
◆業界外からの人財採用と定着の取り組み	
◆部活動の発足や職員交流、イベントの充実	

14 利用者の多様性を引き出し、発展的な活動の提供

実施内容	実績
◆フェスの開催、e-スポーツを交えた活動等の創造と発信	
◆多様な活動を通じて、利用者の参加機会と生産活動の拡充	

15 快適な生活を送るための最適化

実施内容	実績
◆医療機関との連携体制強化	
◆円滑な利用調整のために業務プロセスを改善し、予約システムを再構築	
◆新たな介護機器を導入し、利用者の利便性と安全性の向上	
◆ChatGPTを中心としたAI技術やICT、IoTの導入検討と準備	
◆KCCのブランディング	
◆経営の効率化を図り、利益率2.5%を目標	
◆大規模災害を想定した訓練と備えの強化	
◆生活介護事業について、くろす（単位2）と分離し、単独事業所（定員50名）として運営	

16 衛生的かつ安心・安全で良質な食事の提供

実施内容	実績
◆厨房職員との情報共有・連携を強化 ①月1回の給食会議で献立の検討や意見交換を実施 ②厨房職員との業務ノートを活用し、日々の連絡事項において共有を図る	
◆施設入所者の食形態の見直しを実施	
◆定期的な個々の栄養評価・経過観察（栄養ケアマネジメント）を継続実施	

17 利用者に喜ばれる食事の提供

実施内容	実績
◆月6回以上、選択食を提供	
◆イベント食の提供 ①季節の行事に合わせた食事を提供。 ②47都道府県のご当地メニューを年6回以上提供します	
◆リクエスト食の提供 ①毎月ユニットごとにリクエストを募集 (各ユニット年6回担当制) ②毎月くろすからのリクエストを募集	
◆テーブル・食器類の変更を実施 ①食堂のテーブルを順次新しいものに入れ替え実施。 (年2台) ②食器を順次新しいデザインのものに入れ替え実施 (2025年度は深皿)	

18 おいしい食事の提供

実施内容	実績
◆嗜好調査を活用し、施設の食事「おいしい」「まあまあおいしい」を併せた利用者・職員平均95%を目標	
◆検食簿評価の主菜について、味付け「良い」「やや良い」併せた年間平均値95%を目標	
◆かしの木オリジナルメニュー第一弾を地域のイベントで販売	

かしの木ケアセンター：健康支援係

■ 第1期3か年計画

19 利用者の健康状態悪化予防の取り組み

20 リハビリ作品を通して文化・芸術的活動への参加

■ 2025年度取り組み

19 利用者の健康状態悪化予防の取り組み

実施内容	実績
◆介護職等が歯科医師や歯科衛生士の助言や指導を受けられる仕組み作りを実施	
◆利用者の食事姿勢の評価	
◆医的ケアに関する入所・SS利用のニーズ把握	

20 リハビリ作品を通して文化・芸術的活動への参加

実施内容	実績
◆法人文化作品展・身障協文化作品展・福祉祭りに出展	

生活介護くろす

■ 第1期3か年計画

- 21 医療的ケアの受け入れ体制の強化
- 22 事業の安定化への取り組み
- 23 サービスの品質向上

■ 2025年度取り組み

21 医療的ケアの受け入れ体制の強化

実施内容	実績
◆第3号研修修了者が支援員の50%以上を目標	
◆ガイドラインに沿った受け入れを実施	

22 事業の安定化への取り組み

実施内容	実績
◆入浴支援の提供の10%アップを目標	
◆リハビリの提供と満足度向上に向けた取り組みを実施	
◆創作（アート）活動の強化	
◆業務の効率化に向けたICT、AIの導入に向けた検討	
◆災害等対策と事業継続への取り組みを	
◆生活介護事業について、かしの木ケアセンター（単位1）と分離し、単独事業所（定員20名）として運営	

23 サービスの品質向上

実施内容	実績
◆新人育成方法の見直しと実施	
◆課題に気づく力を身につけるための仕組みづくりの検討	
◆CSの実施	

相談支援センターかしの木

■ 第1期3か年計画

- 24 計画相談の新規受け入れ人数増のための取り組み
- 25 職員定着のための取り組み
- 26 災害時の事業継続のための取り組み

■ 2025年度取り組み

24 計画相談の新規受け入れ人数増のための取り組み

実施内容	実績
◆ICT導入計画を立案し試用と2026年度へ向けた予算化	

25 職員定着のための取り組み

実施内容	実績
◆業務フロー、マニュアル作成を目的としたミーティングを毎月実施	
◆それぞれ相談員が講師となる勉強会を毎月開催	

26 災害時の事業継続のための取り組み

実施内容	実績
◆災害用BCPに沿った訓練の実施	

地域生活サポートセンター らいと

■第1期3か年計画

- 27 品質の向上、維持して継承していくための取り組み
- 28 求められる職員像の共有と障害理解を深める取り組み
- 29 事業の安定化に向けての取り組み

■2025年度取り組み

27 品質の向上、維持して継承していくための取り組み

実施内容	実績
◆CSに対して、対応策の検討 ・良い評価は継続できるような取り組みを、悪い評価に対しては対応策を検討	

28 求められる職員像の共有と障害理解を深める取り組み

実施内容	実績
◆求められる職員像の文章化と周知	
◆ICTを活用した事業所内研修の検討	

29 事業の安定化に向けての取り組み

実施内容	実績
◆ヘルパーの空き時間についての調査と別事業所との兼務の可能性を検討	
◆災害時、感染症発生時におけるBCPの周知	

のびる作業所

■ 第1期3か年計画

30 安定した運営への取り組み

■ 2025年度取り組み

30 安定した運営への取り組み

実施内容	実績
◆就労継続支援B型の利用率100%の維持	
◆生活介護の利用率100%の達成	
◆事業所年間収益率2.5%の維持	
◆BCPの定期的な見直しと訓練の実施	
◆導入可能な非常電源の調査	
◆多種多様な障害への理解を深める研修への参加	
◆復命研修の実施	
◆ICT、DX、AIの調査	
◆CSの実施	

のびる作業所：就労支援係

■第1期3か年計画

- 31 一般就労への意欲を高める支援の強化
- 32 個々の能力をのばせる取り組み

■2025年度取り組み

31 一般就労への意欲を高める支援の強化

実施内容	実績
◆施設外就労参加利用者の適正の再評価	
◆一般就労への理解を深める取り組みの検討	
◆作業工賃支給方法の検討	

32 個々の能力をのばせる取り組み

実施内容	実績
◆就労継続支援B型プログラムの見直し、検討	
◆作業効率を考えた活動場所の検討	
◆安定した作業量確保の検討	
◆文化芸術活動への参加	

のびる作業所：就労生活介護係

■第1期3か年計画

33 より充実した活動に向けた取り組み

■2025年度取り組み

33 より充実した活動に向けた取り組み

実施内容	実績
◆新たな活動内容の検討、実施	
◆生産活動の再評価	
◆文化芸術活動への参加	
◆社会性やマナーを身に着ける取り組みの検討	

すてっぷ・いっぽ

■ 第1期3か年計画

- 34 事業の最適化・安定化への取り組み
- 35 CSのへの取り組み
- 36 安全で安心できるくらしの取り組み

■ 2025年度取り組み

34 事業の最適化・安定化への取り組み

実施内容	実績
すてっぷ ◆短期入所事業の安定した利用に向けた取り組みを実施	
いっぽ ◆いっぽの移転に向けた取り組みを実施	
共通 ◆ICTやAI等の導入へ向けた検討 ◆事業の効率化や運営コストの検討	

35 CSのへの取り組み

実施内容	実績
共通 ◆定期的なCS調査の実施と評価	

36 安全で安心できるくらしの取り組み

実施内容	実績
<p>すてっぷ ◆空調設備などの付帯設備の修繕の実施</p>	
<p>いっぽ ◆迅速な医療への連携と通院対応のための訪問医療導入の検討</p>	
<p>共通 ◆災害に対する取り組み ・BCPの定期的な見直し ・BCPに基づいた防災食の備蓄 ・定期的な避難訓練の実施 ・非常電源設備導入の検討 ◆感染症に対する取り組み ・BCPの定期的な見直し ・BCPに基づいた感染対策用具の備蓄 ・持続可能な感染症対策を実施 ◆防犯に対する取り組みを実施 ・防犯グッズの設置 ・防犯ライトの設置</p>	

2025年度予算

2025年度予算編成について

2024年度は、私たちの生活に必要な不可欠な食品や光熱費、燃料などが非常に高騰し、それは当法人の事業運営にも大きく影響があった年でした。

2025年度の予算編成の特記事項としましては、収入面では事業所の再編成（かしの木ケアセンター及び通所生活介護くろすの事業所分離）と、ふじみ野SPACEの開所を大きな柱として考慮した予算編成を行いました。

費用面ではふじみ野SPACEの安定した運営を行うための人件費及び設備投資のための費用を考慮し、事業費および事務費においても今まで同様の事業運営に必要な経費を見込むとともに、物価高への対応や老朽化した設備の改修を考慮し予算化しました。

これらの取り組みを考慮して2025年度予算を策定しました。

2025年度配賦比率

	かしの木	入所	SS	くろす
かしの木+くろす	40	20	10	30
かしの木	50	40	10	
らいと	生サポ	居宅支援	同行援護	行動援護
	0	100	0	0
	重度訪問	有償運送	移動支援	
	0	0	0	
	就労B	生活介護		
のびる生介	70	30		
	すてっぷⅠ	すてっぷⅡ		
すてっぷ	60	40		
	特定	一般		
相談	30	70		

当初予算書

令和07年04月 ～ 令和08年03月

当初予算書

(単位：円)

科 目	前年度予算	当年度予算	予算差	備考
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
就労支援事業収入	35,225,000	31,569,000	-3,656,000	
作業収入	35,225,000	31,569,000	-3,656,000	
障害福祉サービス等事業収入	742,359,000	786,294,000	43,935,000	
自立支援給付費収入	637,633,000	684,353,000	46,720,000	
介護給付費収入	515,473,000	555,973,000	40,500,000	
訓練等給付費収入	116,100,000	122,320,000	6,220,000	
サービス利用計画作成費収入	6,060,000	6,060,000	0	
利用者負担金収入	45,520,000	45,780,000	260,000	
その他の事業収入	59,206,000	56,161,000	-3,045,000	
補助金事業収入	41,650,000	34,370,000	-7,280,000	
受託事業収入	17,556,000	21,791,000	4,235,000	
生活困窮者に対する相談支援事業収	100,000	100,000	0	
その他の事業収入	16,850,000	17,007,000	157,000	
ふれあい事業収入	16,850,000	17,007,000	157,000	
経常経費寄附金収入	1,000,000	1,000,000	0	
受取利息配当金収入	66,000	70,000	4,000	
その他の収入	3,970,000	3,960,000	-10,000	
受入研修費収入	370,000	370,000	0	
利用者等外給食費収入	2,800,000	2,800,000	0	
雑収入	800,000	790,000	-10,000	
事業活動収入計	799,570,000	840,000,000	40,430,000	
2. 事業活動支出				
人件費支出	512,618,000	542,960,000	30,342,000	
役員報酬支出	9,840,000	11,050,000	1,210,000	
職員給料支出	331,343,000	357,527,000	26,184,000	
非常勤職員給与支出	86,695,000	92,737,000	6,042,000	
派遣職員費支出	11,636,000	5,387,000	-6,249,000	
退職給付支出	11,073,000	10,951,000	-122,000	
法定福利費支出	62,031,000	65,308,000	3,277,000	
事業費支出	110,928,000	115,072,000	4,144,000	
給食費支出	23,292,000	22,552,000	-740,000	
保健衛生費支出	1,753,000	1,500,000	-253,000	
被服費支出	12,161,000	10,000,000	-2,161,000	
教養娯楽費支出	2,501,000	2,589,000	88,000	
水道光熱費支出	25,687,000	25,080,000	-607,000	
消耗器具備品費支出	7,808,000	11,085,000	3,277,000	
保険料支出	1,567,000	1,987,000	420,000	
賃借料支出	16,983,000	16,280,000	-703,000	
土地建物賃借料	13,594,000	17,994,000	4,400,000	
車輛費支出	5,079,000	4,792,000	-287,000	
雑支出	503,000	1,213,000	710,000	
事務費支出	120,179,000	123,812,000	3,633,000	
福利厚生費支出	3,851,000	3,725,000	-126,000	
旅費交通費支出	3,061,000	2,191,000	-870,000	
研修研究費支出	2,917,000	3,024,000	107,000	
事務消耗品費支出	6,670,000	7,913,000	1,243,000	

当初予算書

令和07年04月 ～ 令和08年03月

当初予算書

(単位：円)

科 目	前年度予算	当年度予算	予算差	備考
修繕費支出	4,908,000	6,171,000	1,263,000	
通信運搬具支出	3,485,000	4,388,000	903,000	
会議費支出	785,000	1,500,000	715,000	
広報費支出	4,348,000	3,936,000	-412,000	
業務委託費支出	75,148,000	76,977,000	1,829,000	
手数料支出	7,546,000	5,794,000	-1,752,000	
土地・建物賃借料支出	180,000	500,000	320,000	
租税公課支出	310,000	50,000	-260,000	
保守料支出	2,354,000	1,641,000	-713,000	
渉外費支出	309,000	250,000	-59,000	
諸会費	3,365,000	2,216,000	-1,149,000	
雑支出	942,000	3,536,000	2,594,000	
就労支援事業支出	30,925,000	31,569,000	644,000	
就労支援事業販売原価支出	30,925,000	31,569,000	644,000	
就労支援事業製造原価支出	30,925,000	31,569,000	644,000	
生活困窮者に対する相談支援事業支	100,000	100,000	0	
支払利息支出	2,133,000	1,876,000	-257,000	
事業活動支出計	776,883,000	815,389,000	38,506,000	
事業活動収支差額	22,687,000	24,611,000	1,924,000	
Ⅱ 施設整備等収支の部				
1. 施設整備等収入				
施設整備等補助金収入	0	6,500,000	6,500,000	
施設整備等補助金収入	0	6,500,000	6,500,000	
施設整備等収入計	0	6,500,000	6,500,000	
2. 施設整備等支出				
設備資金借入金元金償還支出	28,884,000	31,884,000	3,000,000	
固定資産取得支出	1,283,000	10,650,000	9,367,000	
建物取得支出	0	6,500,000	6,500,000	
車輛運搬具取得支出	1,283,000	0	-1,283,000	
器具及び備品取得支出	0	4,150,000	4,150,000	
構築物取得支出	0	0	0	
施設整備等支出計	30,167,000	42,534,000	12,367,000	
施設整備等収支差額	-30,167,000	-36,034,000	-5,867,000	
Ⅲ その他の活動収支の部				
1. その他の活動収入				
長期運営資金借入金収入	0	36,000,000	36,000,000	
長期貸付金回収収入	5,040,000	5,040,000	0	
積立資産取崩収入	11,740,000	0	-11,740,000	
退職給付引当資産取崩収入	1,740,000	0	-1,740,000	
修繕積立資産取崩収入	10,000,000	0	-10,000,000	
事業区分間繰入金収入	0	1,542,000	1,542,000	
拠点区分間繰入金収入	55,903,000	81,501,000	25,598,000	
サービス繰入収入	75,923,000	77,235,000	1,312,000	
その他の活動収入計	148,606,000	201,318,000	52,712,000	
2. その他の活動支出				
長期運営資金借入金元金償還支出	0	3,075,000	3,075,000	
積立資産支出	9,300,000	26,542,000	17,242,000	
退職給付引当資産支出	5,000,000	4,542,000	-458,000	

当初予算書

令和07年04月 ～ 令和08年03月

当初予算書

(単位：円)

科 目	前年度予算	当年度予算	予算差	備考
修繕積立資産支出	4,300,000	22,000,000	17,700,000	
事業区分間繰入金支出	0	1,542,000	1,542,000	
拠点区分間繰入金支出	55,903,000	81,501,000	25,598,000	
サービス繰入支出	75,923,000	77,235,000	1,312,000	
その他の活動支出計	141,126,000	189,895,000	48,769,000	
その他の活動収支差額	7,480,000	11,423,000	3,943,000	
IV 予備費収支の部				
予備費収支差額	0	0	0	
当期資金収支差額	0	0	0	
前期末支払資金残高	148,542,990	0	-148,542,990	
当期末支払資金残高	148,542,990	0	-148,542,990	

